

# 東山魁夷画伯の世界と市民性

語る人

東山 魁夷

$\wedge$  日本画家・芸術院会員  $\vee$

きく人

田 中 寛 次

$\wedge$  神戸新聞社長  $\vee$

植 村 通 生

$\wedge$  大丸神戸店長  $\vee$



▲東山魁夷画伯

★画家への志向を決定つけた神戸

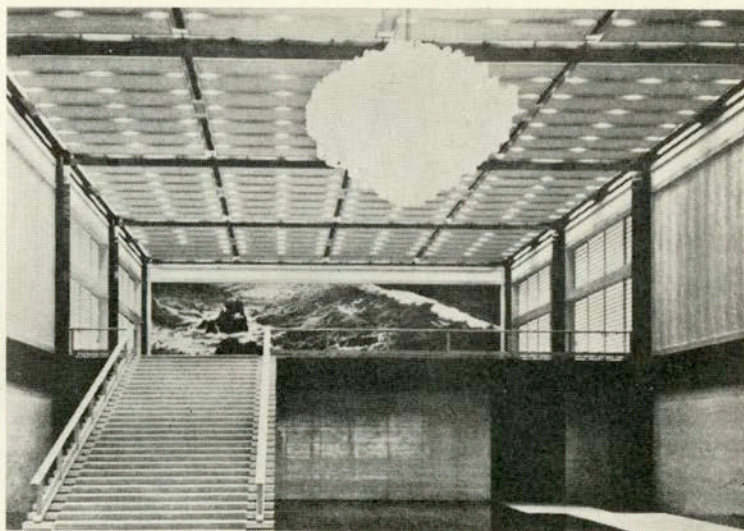
編集部 われわれ神戸っ子にとりましてまずおうかがいしたいのは、神戸に住んでおられた頃の先生のお話という事で、そのあたりからお聞かせ願いますでしょうか。

東山 神戸という町が、私の人間形成のうえでもっとも大きな、おそらくは決定的な役割を果たしているように思います。よく、その人の性格は子供の時にだいたい決

まるといわれますが、私の場合、三才から十八才まで、もっともだいいな時期を神戸で過ごしたわけです。

田中 東山先生は横浜のお生まれでいらっしやるんですが、われわれ神戸の人間は身びいきから先生は神戸の人だと考えています（笑）

東山 横浜はたしかに生まれたところなんです、ほとんど記憶にはないんです。ただ私の記憶の奥深くに古い洋館に対する愛着といったようなものがあります。これ



新宮殿 南溜に揺かれた「朝明けの潮」  
みなみだまり

は横浜、神戸というところで幼少年時代をおくったことによると思います。三才の時にこちらに來たんですが、神戸はなんといまして景色がいいですね。山と海にかこまれて。

わたくしいつか神戸新聞に書いたことがあります、子供の頃身体が弱かったものですから、夏休みによく母が、朝早くから私を裏山の小高いところに、運動を兼ねてつれていきました。西出町とか湊川町といった海に近いところから行くのですから、相当な距離がありました。それでも小高いところに登って、市街や海を見渡しますと清々しい気分になりました。その時のさわやかな印象はいつまでも忘れられません。

田中 お住まいが西出町だとすると、そのころ、潮の香りが海から流れていたのでしょね。

東山 いまでも香ります。家の近くの路を出るとすぐ港の倉庫が建ち並んでいました。あの辺りはいわゆる神戸港ではなく、兵庫港と呼ばれているところです。立派な神戸港ではなかったのですが、赤い提灯のかかった淡路、徳島行の待合所がありました。豆かすのおいがぶんと匂ってきたり、ギーギーという櫓帆船というのですかその帆柱のきしむ音がきこえてきました。私の家の二階からもその帆柱がよく見えました。それから、ポンポンボンと小気味よい小蒸汽船の音、大小の汽笛を毎日ききながら生活していたものですから、先日神戸にやってきてホテルに泊まっていた時、夜、静かな室内に汽笛がきこえてきた時は、ほんとうに懐しく思いました。

#### ★史蹟とハイカラの同居する街

神戸には二つの性格があります。開港以来百年を経ましたけれど、西洋文明のとり入れ口としての常にハイカラな面。もうひとつは古い面です。神代とか神功皇后といった時代は別にしまして、源平、南北朝時代の史蹟がたくさん遺っていますね。私の住んでいた西出町に銭湯があるんですが、その銭湯の隣りの小さなお宮に平経俊の墓がありました。そういったぐあいに、神戸にはなんでもないところに史蹟が多く遺っています。また、兵庫というところは旧い日本のしきたりがのこっていたところ、お祭りになるとみんな幔幕をはりめぐらし、商家では店さを片付けて屏風をたてたりしていました。その新しさと旧さの両方の存在が、私を形成したモチーフではなかったかと思えます。そして、新旧の間を揺れながら歩んできたのが私の芸術の道だったといえます。

最初美術学校へ入る時も、ほんとうは洋画を受けるつもりでいました。日本画にはまだ関係のない時分でしたから。もっとも家の方は画には全然縁のない商売をやっ





田中神戸新聞社長



植村大丸神戸店長

ていましたが（笑）洋画は当時、神戸のことですから西洋の美術書も出まわっていました。私もゴッホとかミケランジェロといった有名な西洋画家の伝記を読んでいました。ところが日本画の方になりますと講談程度の伝記しかなかったんです。そういうことで西洋画の方に親しみがもてたものですから、油絵の方に進むつもりでしたわけです。

田中 東山先生はそれまでも油絵をやられてたんですか。

東山 ええ。中学時代に油絵をやっておりました。夏休みには淡路へ行ってそこで過ごすことが多かったし、日

曜日にはたいてい摩耶、六甲で遊んでたものですから、よくスケッチしていました。中学校の三年生の時、須磨のうしろの方の池だったと記憶していますが、「静」という題で、緑の木々が池にうつっているのをそのまま描いて学校の展覧会に出品したことがあります。思いますに今でも画材、画題というのはあまりかわっていないようですね。

田中 兵庫高校に今でもあなたの画があるそうですが、それは洋画ですか。

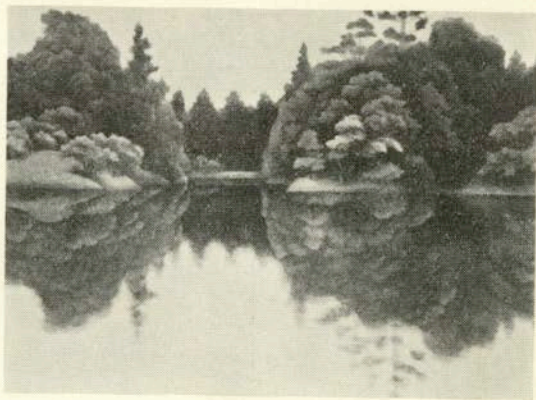
東山 日本画です。最も初期ののですが、もうずいぶんよごれています。

### ★市民性豊かな神戸

東山 美術学校をでるとすぐドイツへ留学しました。日本画をやっていたながらドイツ留学とはおかしな話ですが神戸という土地柄から考えますと、なにかそこに不自然でないものを感じますね。ドイツ留学ではいろいろ西洋的教養を多く学んだわけですが、そのことがむしろ、日本画をやるうえでよりプラスになったと思います。

植村 先生の著書にもそういったことを書いておられましたね。私もある期間京都にいましたが、たしかに古さの京都と新しさの神戸という異質なものに、じかに接することによって、両方がより鮮やかに生きてくると思いますね。

東山 いくつか新聞でみたのですが、日本の各都市で調査した市民アンケートの『あなたは死ぬまで今のところに住みたいですか』という項で、イエスと答えているのがほとんどの都市では半分以下なのに、神戸では九十パーセントを超えていました。たしかに市民ということばがそのままふさわしいのは、日本では神戸市民だけだと思います。市民意識をもった市民のよさというものが神戸にはあります。枠のない常識と明るさと健康のなすところでしょうね。芸術におきましては魂をすり減らすような



「夏 深 む」

健康でありえないようなことをやる場合が多いのですが私の場合、さっき申したような市民性というものが子供の頃から体の中に入ってしまったので、画をやるうえでの大きな支えになっていました。

### ★平凡の中の非凡 市民性の中の芸術

ところがその市民性が逆に、芸術にすすむうえで障害にもなりました。といいますのは、父親は私が画家になることに猛烈に反対していました。父にすればせっかく育てた自分のこどもが、得体の知れない芸術の世界に入っていくことに不安を感じていたようです。真面目な市民になれということですね（笑）実業の方をやらせて、いわゆる健全な市民に育ってくれるよう願っているのに息子はあまりにも不可解な世界に入っていく（笑）しかし私自身も芸術家というものに対して、小さい時から疑問をもっており、そういう意識を常にもっていました。

そのことが私の場合、一見ごく普通の健全なる市民タイプの様相をさせているのではないかと思います。

田中 いま先生がおっしゃったような話が「神戸っ子」に載ると、読む人にとって東山さんがますます、身近に感じられるというか、惹かれていくんじゃないでしょうか。たいへん尊いことだと思います。

東山 結局、大局的に芸術家というものとすれば私の場合、むしろ側ではなくて、市民の側にいるわけです。自分でも、そうあるべきだといきかせているつもりです。

田中 展覧会に來られている人も肌でそのことを感じているでしょうね。

東山 芸術の鬼と呼ばれるものに、ある面では感心するんですが、鬼才というもののあり方に私は疑問をもっています。仕事の鬼ということになりますと、また別ですが。芸術からみればなまぬるいといわれるかも知れませんが、私の場合、両者の間の張りつめた緊張感の中に立つことをひとつの支えにしています。

### ★「魁」は北斗七星のいちばんめの星

田中 これはぜひおうかがいしておきたいのですが、先生の画号「魁夷」が常識的には考えられない、しかも、直接先生にお会いしまして、お人柄と画号がまったくそぐわない感じを受けます。画号はどのような由来からおつけになりましたか。

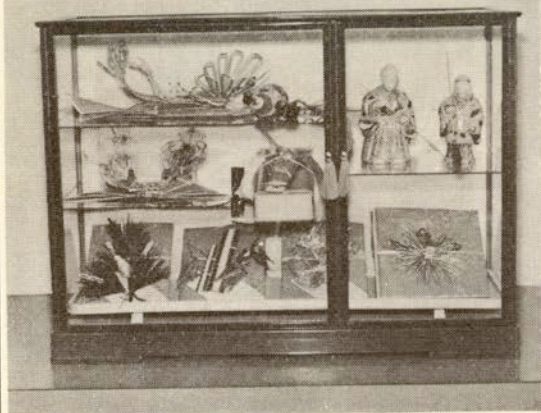
東山 画号は美術学校を卒業した時につけました。それまで在学中に、当時の帝展に二度、本名で入選しておりましたので、いま号をつけないと本名の方が通りになって号がつけられなくなるとい、いそいでつけたものです。どういう号をつけようかとおおいに迷いました。

わたくしは、一方において非常に常識的なところがあるんですが、やはり別の一方には非常識な面をもっています（笑）日本画家の号は、おめでたい字やきれいな字



幸せな二人  
えにしを結ぶ 結納儀式用品

壽



新型ケース入御結納飾

合資会社

遠藤福寿堂

東店＝神戸市生田区トア・ロード高架上 TEL(39)代1871  
西店＝神戸市長田区市電菅原東入 TEL(55)代2251  
メトロ神戸店＝神戸高速地下街 TEL(34)1035



みよーや

神戸店 大丸  
電話神戸 3332 三四八番(代)  
大阪店 阪神百貨店三階  
電話大阪 (361) 九五八四番  
姫路店 やまとやしき百貨店四階  
電話姫路 (23) 一二二一番

●●● 新入社員歓迎会はスカイサントリーで ●●●



★すばらしい眺望！

★ミナトコーベを見おろす大ホール

★被露宴・パーティ・送別会・歓送迎会  
に大変ご好評をいただいております

お気に召すだけ

飲みほうだい（サントリー純生ビール クラウン・コーラ）+ 食べほうだい！〈北欧風ヴァイキング料理〉1,200円〈飲食税120円別〉  
カクテル、デザート、コーヒー、一品料理も盛だくさん準備しています



なごやかな  
ムード  
すばらしい  
眺望！

三宮交通センタービル9階 TEL ③93705～6

# スカイサントリー

5月～9月上旬までビヤ・ガーデン開設





「朝明けの潮」 制作中の東山画伯

をならべて感じのよい号をつける風習がありました。私  
はそういう風習に反抗して、おめでたい、美しい号はな  
んだか自分の考えている日本画の方向と違っているよう  
に感じられましたので、また、日本に名が知れわたるな  
どとは夢にだに考えていませんでしたので、普遍的でな  
いかわった号をつけたわけです。カイという文字は最初  
「槐」 えんじゅの意味ですが、それを使うつもりでいま  
した。ところが、やはり画家で村山槐多という方がおら  
れたんです。しかもその方の木名でもあったことから、  
真似になってもいけないので、「槐」をあきらめてさき  
がけという意味の「魁」を使うことにしました。下の文  
字は下の方が開いて一字で発音できる文字を考えま  
した。しかも号がヒガシヤマとコントラストをなす方が  
格好がつくということで結局「魁夷」ということになり  
ました。

これはおめでたくないというつもりでつけたんですが  
以前井上靖さんと対談した際、井上先生から鬼へんのつ

く字は星をあらわし、「魁」は北斗星のいちばんめの星  
だと教えられたんです。するとこれは大へんおめでたい  
名前だということになり、私の考えておったことといさ  
さか事情がかわってきました（笑）それでも、この号が  
私自身の性格や画と違うなあと考えたこともありまし  
たが、いまだに変えてもと思いついたまま続けてきました。  
私の画はだいたいやわらかいものが多いのですが、なか  
にはある程度きついものもあります。魁夷の画もあるとい  
うわけです（笑）

## ★バンカラ神戸二中に学ぶ

東山 もう一度子供の頃を思い出しますと、さっき申し  
ましたように住んでいたのは兵庫の下町なんですが、筋  
むかいに小さな教会がありました。庭に杏竹桃が咲いて  
いて、小じんまりした教会なんです。毎年一月元旦に  
朝六時頃、その教会の塔から音楽が流れてくるんです。  
それがなんと「君が代」なんです。新開地に近かった  
ので、劇場の楽隊が来ていたのかもわかりませんがいか  
にも神戸の一面を物語るような気がしましたね。小学校  
は今でもありますが入江小学校に通っていました。大き  
な太鼓がありまして、授業の始めと終りにたたいていま  
した。

それから当時の神戸第二中学へ進みました。神戸二中  
というところはバンカラを誇りとし、またスパルタ式の  
学校でもありました。画家では小磯良平さん、古家新さ  
ん、田中雄夫さん、詩人では竹中郁さんなど多数の詩人  
画家を輩出しています。そこでまた感じるんですが、た  
とえば小磯さんの画をみましても、やはり根柢になって  
いるものは市民性に対する共感ですね。やはり神戸の中  
にそういう要素があるといえるんじゃないでしょうか。  
ですから私も市民性とかけ離れた、人を驚かせるよう  
なものを描こうという気はしませんし、そういった画法画  
風にのっとっていききたいとも思いません。

# ★新宮殿壁画「朝明けの潮」

**編集部** 先生はこのたび、新宮殿壁画という美術史上にのこる偉業を達せられたのですが、そのことに関しましておはなし願います。

**東山** そのことはよくきかれるのですが、さきの東宮御所にしましても、このたびの新宮殿にしましても、壁画を描くにあたってまず頭に浮かぶのは、権威の象徴といったようなものではなく、国民のもっているおおらかで平和な願い、そういうものでした。宮内庁としましてもむしろそのように望まれていたように思います。そういう意味で平明ということを書いてみようと考えたわけですね。

**田中** 東山さんは謙虚な方なのでおっしゃいませませんが、陛下は「朝明けの潮」をご覧あそばされてから東山さんに、ありがとう、とひとことですが、おほめのおこたばを賜われたそうですね。陛下のそのおこたばは、飾り気のないお気持ちそのままの表現で、国民的な喜びがそのなかにあると思います。

**東山** そういう風におっしゃられると恐縮なんです、陛下は、新宮殿ができたことをひじょうにおよろこびのようです。いく度も新宮殿に足をおはこびになられているとおききしています。この新宮殿は全部完成してはいませんが、四月の天長節（天皇誕生日）からお使いになれるそうです。

## ★波と岩を求めて全国行脚

**植村** 「朝明けの潮」は波と岩からなっていますが、私自身、日本海でなく太平洋側ではありますが、海の近くに育ち、荒磯の風景になじんで育ってききましたので、ことさらに感じるころがあります。

**東山** 画材から一切をまかされていましてので、日本を

象徴するような風景を描いてみようということ、いろいろ考えてみました。日本という国は、神話の御代から海に關係のある国で、今でももちろん四方を海にかこまれた四周環海の島国です。ですから、日本中いたるところに海岸の風景のいいところがありますので、海を描こうという気がまずおこりました。しかし海といってもただ漠然としていて、どんな構図でもできますが、それだけにそのなかのひとつを選ぶとむづかしくなります。全国随分あちらこちらを写生しながら行脚をしました。その経過を大丸での展覧会でご覧にいたしました。

幸いに、このたびの一連の展覧会では、みなさまからたいへんご好評いただき、また多数の人にご覧いただきました。ましてひじょうにうれしく思っています。

**田中** 我々としまでも、先生の画を神戸にもってこれたことに深く感謝しております。そのおはなしを申し上げた時になんら躊躇されることなく快諾されたときは、ほんとうにうれしく思いました。十万人近い方が入場されたようですね。

**植村** 新聞では六日間で七万人と報道されていますが、そのほかにうちの従業員が何度もみにいってまわし、東階段からの入場者が数に入っていますので、十万人とみてさしつかえないでしょうね。会場をひろくっておきましたのも我々にとって幸いでした。

**田中** 先生を慕う市民、県民のみなさんが、新宮殿落成を通じまして、さらに先生を身近かに感じるようになってあらわれじゃないでしょうか。

**編集部** 会場にいられた方もみなさんごやかな様子で画をご覧になっていましたし、何度もみにいられた方も多かったです。先生がおはなしになられたように、市民の側の芸術そのものを我々も直接感じることができました。どうも、お忙しいところを長時間ありがとうございます。



■座談会■ <2> 神戸二中同窓生東山魁夷画伯を語る

# 文学好きな紅顔の美少年



神戸二中同窓生に囲まれて 左から 高木太郎・青木一夫・東山画伯・中山清二・上山 茂・岩木年中の各氏

高木太郎 神戸大学教授 教育学部長  
青木一夫 洋画家  
中山清二 株式会社興人顧問

上山 茂 寒山寺執事長  
岩木年中 岩木病院院長

## ★文学好きな紅顔の美少年

高木 個人的にはこれといった想い出はないんですが、中学時代の写真なんかを見ると、よくぞ立派になったと感服しますね。

上山 ぼくのいことが東山君の兄さんと同じクラスだったもんで、はじめは東山君の兄さんの方をよく知ってたんです。たしか兄さんは十一回生じゃなかったかな。東山君は兵庫の八幡さんの近くに住んでましてね、そこから通ってました。

おもしろいことに中学四年の頃われわれの間では、東山は小説がひじょうにうまかったんで、小説家になるんじゃないかというってんだですよ。画の方に進むとは思わなかったし、失礼ない方だけど、これだけの大家になるとは思わなかったね。

中山 今日来ておられませんが、阪部という先生がおられて、東山はその先生によく世話になったというか、激励されてましたね。

東山とは幼稚園、小学校から同じで、家も近かったんだが、東山はいわゆる紅顔の美少年型でよく可愛がられてたよ。しかし、東山のお父さんは美術学校には反対ですぐにでも高商に入れるつもりでいたらしいんだなあ。阪部先生は英語の先生で、東山の画をどの程



「曙」  
あけぼの

かなあ。

中山 率直にいうと、一中は秀才型で紳士型で、僕らの二中はパンカラだった。僕らはそれを誇りにもしていた。みなさんもご経験あると思うが、昼食の時でも床に座り込んで、砂ぼこりにまみれて食ったもんだ。そんな泥くさいところから小磯さんや東山のような画描きが生まれるというのはどういうことかな。

岩木 ぼくもいつもそのことを考えるんだ。

高木 先生がちがってたね。一中は型にはまったような教育をしていたが、二中には自由な気風が満ちていた。それだから二中の生徒はあらゆる方面に自分の持ち味を生かした。先生にしてもよかったね生徒の才能を発見する先生がおられた。東山君の才能を発見したのが堀先生だったんだ。

岩木 僕も東山君の場合、堀先生が問題だと思うんだよ。

高木 堀先生は習字も教えられてた。ひじょうに穏やかな先生でよかったんですが、惜しいことにすぐよそへかわられた。

青木 堀先生は日本画をやっておられた。それから、私は知らなかったんですが、東山君の話では堀先生の前に、油絵をひじょうに熱心に指導される先生がいたようですね。

## ★自由の気溢れる神戸二中

中山 さきほど高木君がいわれたように、二中には秀才教育をする先生が多かった。

上山 ダルトン・プランとかいう自由教育の中で、個人の才能を伸ばす教育をする先生がいた。

岩木 結局、バイタリティが強烈だったといえるね。沢山生徒がいたけど、各々が運動に、芸術に、勉強に特色を発揮していたし、先生にしても個性をもっていたね。

高木 東山もそのころ画の塾なんでものはなかったけど、よく描いていたね。

青木 我々にとって大きな刺激になったのは、小磯さんとか、画もやっておられた竹中さんが、展覧会にたびたび入選していたことでしょうね。そうすると僕らも負けんようにやらんといかん、といってがんばったわけです。

当時、画だけに限らないけど、そういう仲間は自然に集まったものでした。しかし、家では大へんな圧力を加えられたもので、みんなはかまの下の道具を隠して出掛けたもんです。

高木 二中はどの学年も成績を発表してんだがぼくらの学年だけはそれをやらなかった。学年主任によってちがうんだけど、初め

## ★生徒の才能を生かす神戸二中

岩木 それにしても二中から、小磯良平さんにしてもそうだが、なぜにこれだけの画家が生まれたん

なかつたなあ。





「照紅葉」  
てりもみじ

生徒に考えさせるといったぐあいだ。  
中山 それだからしばらくも卒業できたのかも知れんなあ(笑) 誰も成績なんて気にしなかったね。それでも画を描くとなったらしんどいことだったなあ。東山には天賦の才があつたんだ。もちろん先生もよかつたんだろうが。

★名作家 東山新吉

から最後までそれを徹底してたね。だから試験ということにガツガツしてなかった。

上山 国語なんかの場合、いわゆるダルトン・ブランにのつとつた授業で、先生は教えない。すべて



「年暮る」

青木 その時分画をやる人はたいてい文学好きでしたね。東山君の場合も白樺派の流れをひいてたんじゃないかな。ひじょうに文がうまかつたですね。  
中山 たしかに文章がいいですね  
上山 植栗與門という先生がいて東山の文章はうまいって教室で読み上げてましたよ。そんなわけで私は、彼が小説家になるんじゃないかと思つてたんです。  
中山 植栗先生が東山をかわいがるんで、我々悪童は妬んでたんだよ(笑) それぐらい東山をかつたね。

上山 東山がきたら、いよお、東山っていうようなもんでね(笑)  
高木 ヒイキというか、そういう風にわれわれはみていたね。よく東山の文章を読んでたから。  
上山 東山がおもしろいことをいってたよ。ある時同窓会で、これ

からはみなさん結婚されるでしょうが僕は画の方に進みます。みなさんのためにいくらでも画をかきますので遠慮なくいつてください  
中山 今はいいたくつてもいいないなあ(笑)

しかし、東山にもみじめな時代があつたんだ。画を全部売ってしまつてね。スケッチブックまで画商にチェックされてたんだ。それでいったんだ。安井曾太郎といつた大家でも、なくなつた後奥さんは大へん苦労された。そのことをひきだして、東山に君もマネージャーをつけるかどうかせんと奥さんがこまるよ。

東山は、最近ちよつと肥えすぎてるね。おとしの慰霊祭の時、こんどはそのことをいった。俺みたいな野人はいつ死んだってかわんが、君みたいな国宝的人間はまだまだ長生きしてもらわんといかん。適当に運動をして身体に注意してくれてね。ところが東山は夜しか画が描けないらしいんだな。律気なんでひっぱり出されるとよう断らんし、また最近芸術院会員にもなつたんで、マスコミが放つとかないんだな。

とにかくこれからもどんどん立派な画を描いてもらいたいね。

上山 それからいつまでも神戸という街と、二中を忘れないでほしいな。

K O B E の  
気楽な雰囲気  
楽しめる  
CLUB 《落》

\*



CLUB ふ き

落



生田区下山手通2丁目 TEL 39-1515



デッサンのあるクラブSが

花の4月。オープン11年を迎えました。

4月4・5・7・8・9・10日の6日間

楽しい記念パーティをひらきます。  
ぜひ、一度お立寄りください。

クラブ・エス

福島里子

神戸・生田区下山手通2-6  
PHONE: 078 (33) 2406